

■令和3年度敦賀市中池見湿地保全活用協議会 第1回会議（要旨）

【議事録】

日 時：令和3年10月22日（金）18：00～

場 所：敦賀市

出席者：委員11名、顧問1名

リモート：顧問2名

【開会】

○令和3年度敦賀市中池見湿地保全活用協議会第1回会議の開催にあたり、会長よりあいさつをいただいた。

（会長）

・久しぶりの協議会だが、私としても実際に対面する会議に出席するのは久しぶりになる。大学の会議もほとんどzoomによるものになっており、良い面もあるが、全体の雰囲気がかめないことがリモート形式において寂しく感じている。今回事務局の方でリモート形式を準備してもらって、周知の方法に課題があったかもしれないが、顧問の先生方が協議会の議論に参加することに繋がればと思っている。

【事務局担当者交代あいさつ】

（事務局）

・昨年度まで担当を務めていた（事務局）の後任として環境廃棄物対策課に着任した。中池見湿地の保全活用に向けて励んでいきたい。

【議事1】 前回議事録の確認

…資料1に基づき説明（事務局）

◎質疑応答まとめ

（会員）

・前回所用のため欠席したが、議事録が欠席者にも回らないと、その会の内容が分からず、議論についていけない。欠席している人にも内容を周知してほしい。

（事務局）

・次回に向けて、今回の議事録作成から気をつける。

（会長）

・会議が終わった後、速やかに要旨をまとめて周知して、訂正などの意見を集めて議事録を確定してほしい。

【議事2】 令和2年度の中池見湿地への来園者数等の状況報告と令和3年度9月末時点の状況報告について

…資料2に基づき説明（事務局）

◎質疑応答まとめ

(会員)

・来園者数はカメラで確認した数値か？また、人が増えたことについて、事務局で傾向は掴んでいるか？

(事務局)

・来園者数の数値に関しては、園内3箇所（藤ヶ丘町、天筒山散策路、檜曲）の入口に赤外線センサーを設置し、その装置の数値を集計している。カメラでは撮影していない。

・傾向としては、天筒山散策路・檜曲からの来場者数が増えている現状である。

(会員)

・12月から2月にかけて、休館としていることは聞いている。当初の議論では、貸館はしないが保全の関係で人の配置は行っているとのことだったと思うが、その期間の管理状況についても教えてほしい。

(事務局)

・ビジターセンター休館中も、職員がいるときは館内のトイレは使用可能としている。

・園内巡回中で職員がセンターを留守にするときは施錠するので、三ツ又にある仮設トイレが利用できる案内をビジターセンターの入り口に掲示していた。

(会員)

・休館の間、ちょうど巡回中のときにビジターセンターに寄ったことがあったが、三ツ又にあるという表記が分かりづらく、不親切なように感じた。

・巡回中に不適切な事象があった事例はないか？

(事務局)

・施設の職員からは、巡回中に不適切な事象があったという報告はなかった。

(会員)

・巡回は1日に1回ぐらいの頻度と思われるが、目視による確認をかいくぐって問題行動が起きていなければいい。

(事務局)

・3月から保全作業を再開する際に保全作業員にも確認したが、支障はなかったという報告ももらっている。

(会員)

・巡回を補うものとして、中池見湿地を熟知している人からの情報や報告を共有する仕組みがあれば、みんなで中池見を守ることに繋がるのではないか。

(会長)

・システムまではいかないが、どこに連絡すればいいかは明確にしておいた方がいいのでは。

・休館中に何もなかったとのことだが、他者からの意見など客観的に拾うことも必要ではと思う。

(事務局)

・何かあった場合は、中池見人と自然のふれあいの里館長か環境廃棄物対策課へ連絡してほしい。

【議題3】ヤナギ類の除去（環状剥皮）の試行結果について

…資料3に基づき説明（事務局）

（資料説明補足）

- ・数量について、81個体、137本となっているのは、試行の前に既に草を刈っていた個体から複数のひこばえが生じており、そのひこばえを含めて数えた場合137本となった。
- ・この環状剥皮でヤナギ類を全て枯らしていくと決めているわけではなく、あくまで試行であるが、試行に関する結論としては非常に有効な手段であると感じている。
- ・資料中、幼木と記載があるが実際は年数がたったものにも試行している。
- ・初夏に行ったのは、植物の成長よりも前に実施して成果をあげるため。
- ・秋になって枯れたものもあるが、環状剥皮を行ったものは顕著に枯れている。環状剥皮によって枯死したかの結果が分かるのは来年初夏となるが、その結果に関して、7割から8割の手ごたえを感じている。
- ・剥皮の長さの20センチはかなり長いですが、ヤナギ類の生命力の強さを考えとよかったと考えている。

◎質疑応答まとめ

（会員）

- ・環状剥皮を今後他の園地について広げていく予定はあるのか？
- ・機会があればぜひ参加させてほしいが、そういった機会はあるか？

（事務局）

- ・範囲については、野鳥の生息域との兼ね合いもあるので協議会で議論が必要と考えている。
- ・市民に広げていく方策の具体化も協議会で議論が必要と考えている。

（会員）

- ・環状剥皮によって枯れた後は、ヤナギ類は根も抜き取るのか？

（事務局）

- ・抜き取ることも可能だが、労力が非常にかかる。抜き取らず、そのまま土に帰るまで放置を考えている。

（会員）

- ・ヤナギ類の除去について、環状剥皮の方法がベストの方法なのか？他に方法があるのか？

（事務局）

- ・環状剥皮した後に除草剤を塗布して枯らすこともできるが、湿地に化学的な影響を出さないことを考えて提案した。また、単純に引っこ抜くこともできるが、その方法では環状剥皮の労力と比較して、その方法が膨大になる。現状のやり方が時間はかかるが労力が少なく、

確実なものと考えている。

(会員)

・保全について考えると、自然に任せておくという考え方や、今の姿を維持するという考え方など、どの姿を目指すべきなのか。

(事務局)

・中池見湿地保全活用計画の策定時にも目指す方向は議論になったが、全て高茎草原になっても低茎草原になっても問題がある。計画の策定時には野鳥等の専門家も入って議論を行ったうえで、目標植生という形で位置付けられている。

(会員)

・今いるメンバーで保全や利活用を担っていく中で、原点に立ち返って確認することが必要と感じていた。限られた資源や資金でどこまでやるのかということを考えるためにも、そういった観点でも資料を出してほしい。

【議題4】中池見湿地保全活用計画に関するレビュー方法について

…資料4に基づき説明(事務局)

◎当日説明による変更事項

・資料中では11月19日(金)を回答期限としているが、11月末日までに変更。

◎質疑応答まとめ

(会長)

・様式への記入にあたり、不明な点があれば後日でもいいので事務局に連絡してほしい。

(会員)

・計画における記載が抽象的で、自分の団体がどの分類になるのだろうという思いもある。体制として、分野の担い手がいなかったり、その分野からの協力が得られていなかったりなどの、抜けや漏れがある。自分たちが何を担っているのか、今の協議会に何が足りないかを考える段階に入ったのかと考えている。

(会長)

・全体のレビューをどう進めていくか。簡単なものではないと考えている。このメンバーでできることを振り返り、課題を出していきたい。

【議題5】その他事項について

…資料5に基づき説明(事務局)

資料外の話題について

①後谷の水枯れについて(会長話題提供)

(会員)

・後谷のうち、お地蔵さんがある谷のあたりは完全に水が枯れている状況である。新幹線建

設工事に関連して、トンネルの閉塞は終わっており、構造としては完成していると機構から説明を受けており、水が引き込まれることはないはずだが、渇水が回復されていない。

・谷によっては水があるのもあるが、お地藏さんがある谷や勝屋谷については、完全に水が枯れている。降雨直後にいったん回復するが、また渇水状態に戻ってしまう。

・後谷を水源としていた耕作地について今年度は田植えを諦め、田んぼの耕しだけ行った。貴重な動植物の生息地となっていたが、生息に適した場所ではなくなっている。

(会長)

・鉄道建設・運輸施設整備支援機構のモニタリング委員会で話題になっているか？

(会員)

・モニタリング委員会の専門家会合でも取り上げられると思っているが、具体的にどう保全するのかという話に至っていない。

・後谷から堀切にかけての深山沿いには沢の上流へむけてパイプが設置してあり、水枯れが起きたときには下流からポンプアップできるよう整備されているが、それを動かすということにはなっていない。

・下流の水を揚水することに抵抗感がある。

・パイプは、工事によって断水するときに緊急的に対応するための措置で、恒久的な措置ではないので、水が枯れたまま戻らない現状で揚水するかどうか判断するのは難しいところがある。是非は専門家の意見を聞いて運用すると聞いている。

・運用に関しては、地元からの要望を受けて諮問を行い、許可が出たら作動ということになるが、実際に動作の要望を出すというところには至っていない。

(会長)

・構造としてトンネルが完成しているのであれば、渇水は一時的な状態ではないように感じる。協議会が何かできるものではないし、もう関係機関に伝わっているとは思いますが、状況は引き続き見ていきたい。

※(委員)が後谷の水枯れについて質問

②環状剥皮の追加実施について(事務局提案)

(事務局)

・会員の了解があれば、範囲を広げ追加で作業をやりたいと考えているが、意見はないか？

(会長)

・先ほど、試行結果の検証は一冬越して分かるという説明だったと記憶しているが。

(事務局)

・検証はそうだが、試行結果から8割がた成功の見込みを感じている。

(会長)

・次回の会議において、計画における目標植生の資料を共有し、議論を行ってからの判断としたい。次回の会議で資料を添付してほしい。

(会員)

・追加実施に関連して、財源の問題もあるので、ふるさと納税等の状況についても情報を共

有したい。(単に環状剥離追加是非ではなく、中池見湿地維持のための財源全体を考慮した施策の決定としなければならない。)

③新幹線建設工事と中池見湿地の水の保全について

(会員)

・新幹線工事と水源に関して、意見は誰がどのように表明しているのかよく分からなかったし、資料についてどうすれば入手できるのかななどを教えてもらえないか。

(会長)

・県の自然環境課の方で何か分かることがあれば言及いただきたい。新幹線工事にかかるモニタリング委員会にオブザーバーとして参加されていると聞いた覚えがあるので。

(顧問)

・11月の下旬に機構から説明を受ける予定となっており、状況の確認や把握を行う。

(事務局)

・機構のホームページに委員会や調査結果の資料は掲載されており、見ることができる。

(会長)

・ホームページの URL など、可能であれば情報共有していただきたい。

(会員)

・新規研究の取組みは嬉しく思う。

・資金は稼がねばという話もある一方で、環境は保全せねばという話もある。それらに加えて限られた資金でどう活用するかという話もあって、結局動けないという不安に襲われる。

・どこが主導権を持って計画の推進をしていくかが見えないし、疑問に思う。

・保全や活用を両方進めていくには、予算をきっちり立てないと進んでいかないと思う。

(会長)

・計画の推進にあたり、他の湿地の事例や保全活用に携わっている方の話を聞いて勉強する機会があってもいいと思う。

(会員)

・新幹線建設工事による影響に関して、個人的に3年前から機構に問い合わせを行っているが、一市民に対してはなかなか情報が報告されない。

・私は中池見湿地を人工的な湿地と思っているが、水がなければ湿地帯ではない。協議会が新幹線工事にどう関わっているか知らなかったが、水が回復されていないなら、協議会として機構に問い合わせてもいいのではないか。

(事務局)

・以前から協議会としてどう関わるかの議論があるが、協議会の中池見湿地保全活用計画について議論したり、団体間の連絡調整を行ったりする場所ということで始まっているので、議事ではなく、その他事項の中で新幹線工事の影響などを話題として挙げる流れとなっている。

(会員)

・以前の経緯は分かったが、これからどうするのか。

- ・水が回復しなかったらどうなるのか。協議会に関わるのか、関わらないのか。
- ・トンネル工事によって水脈が遮断されたということが分かったなら、どういう形で関わっていくのか。
- ・人間の手が入ってできた湿地であることから、人間の手が入らなくなった状態で保全する訳ではないと思うが、そうであれば、水の問題を重要だし無視することはできない。

・機構は工事が終わったら関わらなくなるかもしれないが、ならば、その後はJR西日本が責任を持つのかということにもなるし、県はどのように考えているのか。

(会長)

- ・水枯れの問題は県に伝わっているか、その問題に県はどう考えているのか。

(会員)

- ・県から機構に対して回答を求めてほしい。

(会長)

・対応が難しいという場合は難しいという回答でいいです。県も同じ協議会の一員ではあり、難しいかもしれないが、県に行政上の対応を求めることは必要という声もあるため、回答が得られたら、次回の協議会で話題として触れたい。

④リモート開催の改善案について

(会長)

・状況を見ると、音がうまくリモート先に伝わっていないので改善を検討してほしい。

・音声がか切れた場合等アクシデントに対応するために、事務局席にパソコンを設置して対応してほしい。

(顧問)

- ・マイクについて、WEBマイクなどを準備すると音がクリアになるのでは思う。

(事務局)

- ・そのマイクの設備を敦賀市としては持っていないと思われる。
- ・会場を工夫して、対応していきたい。

⑤パンフレット案に関する意見について

(会長)

・以前の協議会で示したパンフレット案について、内容を確認してほしいということだったが、発行済みか。

(事務局)

- ・まだ調整中なので、他に意見があれば11月末までに申し出てほしい。

(散会)